

6-9 中国地方の地殻変動

Crustal Movements in the Chugoku District

国土地理院
Geographical Survey Institute

第1図は、1987-'91年～1981-'83年の間に中国地方において水準測量を行った結果を、田後験潮場付属水準点19及び萩験潮場付属水準点25を仮不動点として、網平均計算を行って得られた上下変動である。萩～広島を結んだ線から南西側が隆起になっている。徳山から山口にかけて約4cmの隆起が見られるが、これは広島～徳山間の水準測量において、系統的な誤差がみられ、これが原因と考えられる。西側的水準路線の環閉合だけが3mmオーバーしている。他の地域は全体的に沈降しているが、米子から岡山の路線で中国山地の辺りで3～4cmの沈降がみられるのが特徴である。

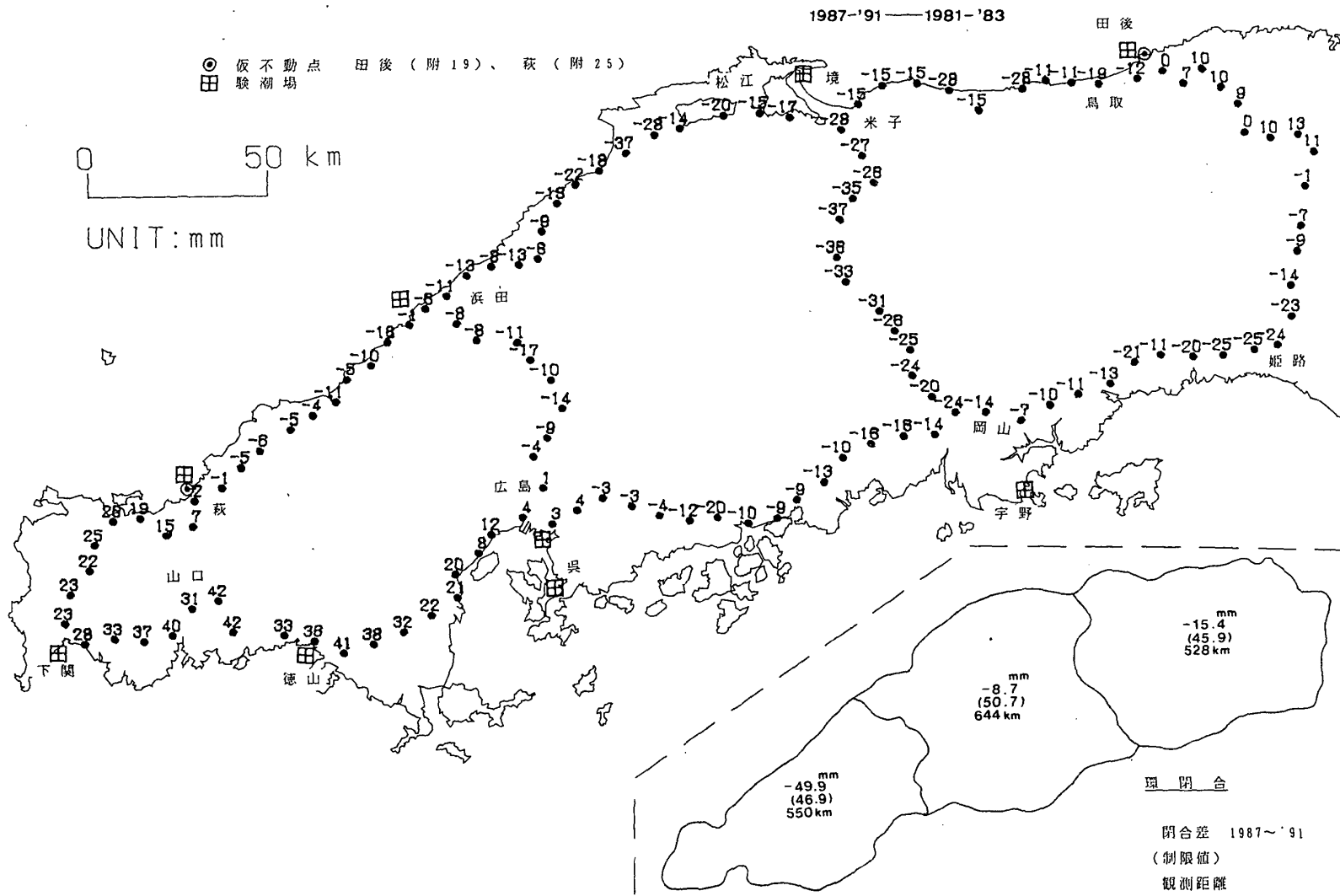
第2図は、境・田後・浜田各験潮場間の月平均潮位差の結果である。顕著な変化は見られない。第3図は、徳山・呉・松山における各験潮場間の月平均潮位差である。呉、徳山の沈降がみられる。

第4図及び第5図は、今まで地区ごとに報告していた水平歪の結果を、中国地方に取り纏めたものである。一等三角点と部分的に二等三角点を入れて、平均的な形にして見やすくしたものである。第4図は、一次網2回目で1回目の比較で、鳥取周辺で 4×10^{-6} 程度の最大せん断歪が見られる。この辺りは、1983年10月に鳥取県中部の地震(M6.2, 深さ10km)があり、その影響かもしれない。第5図は、一次網2回目で明治の比較である。

鳥取周辺の大きな歪は、1943年の鳥取地震(M7.4)の影響である。全体的に見ると浜田～広島を境にして、東側と西側で歪のパターンが違っているのが特徴である。

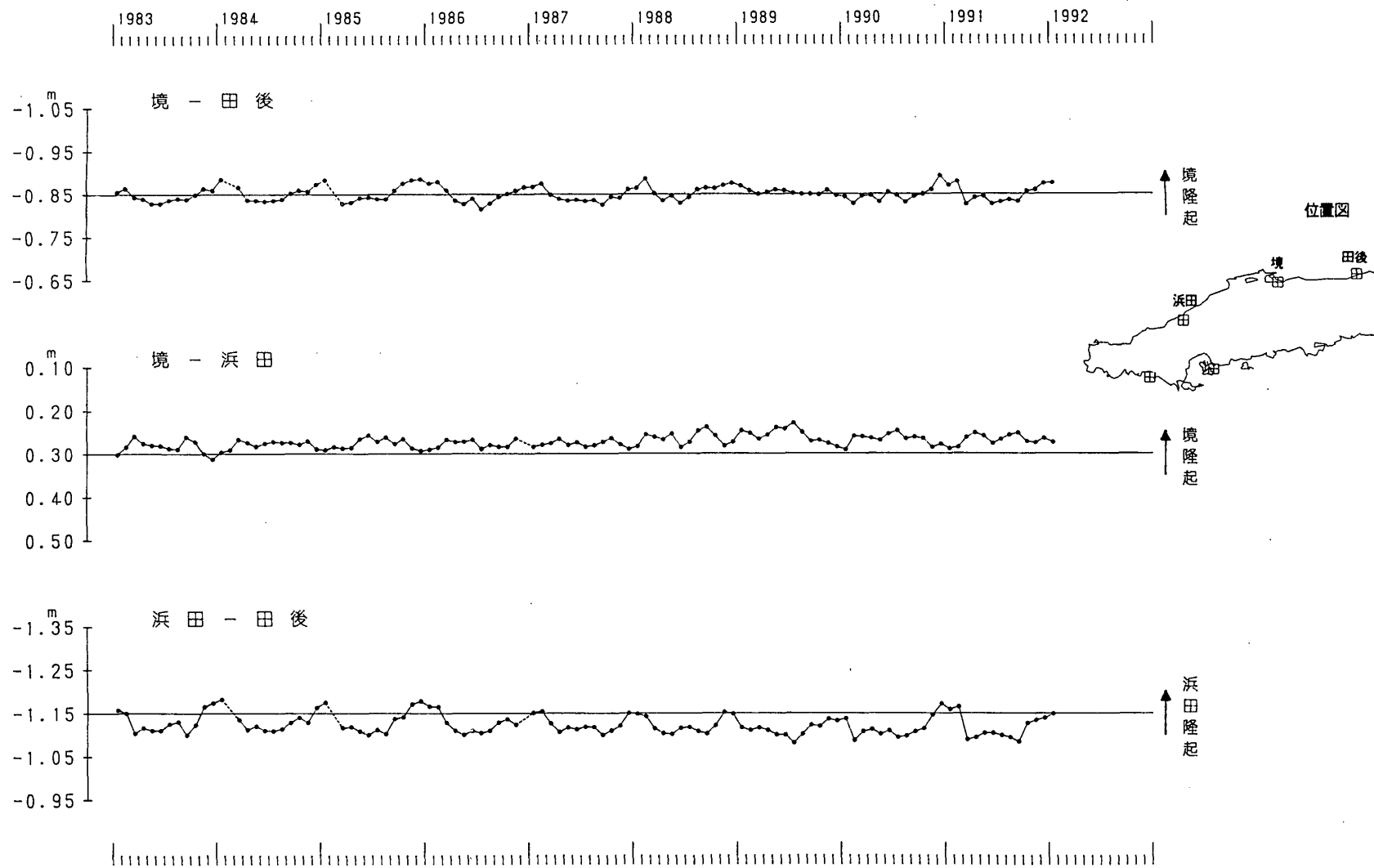
参 考 文 献

- 1) 国土地理院：中国・四国地方の地殻変動，連絡会報，**36** (1986)，355-364.
- 2) 国土地理院：中国地方の水平歪，連絡会報，**38** (1987)，444-450.
- 3) 国土地理院：中国・九州地方の地殻変動，連絡会報，**40** (1988)，384-390.
- 4) 国土地理院：中国・四国地方の地殻変動，連絡会報，**41** (1989)，453-457.
- 5) 国土地理院：中国地方の地殻変動，連絡会報，**42** (1989)，340-343.
- 6) 国土地理院：中国地方の地殻変動，連絡会報，**43** (1990)，473-485.
- 7) 国土地理院：中国・四国地方の地殻変動，連絡会報，**44** (1990)，382-387.
- 8) 国土地理院：中国・四国地方の上下変動，連絡会報，**45** (1991)，436-442.
- 9) 国土地理院：中国地方の上下変動，連絡会報，**46** (1991)，391-393.



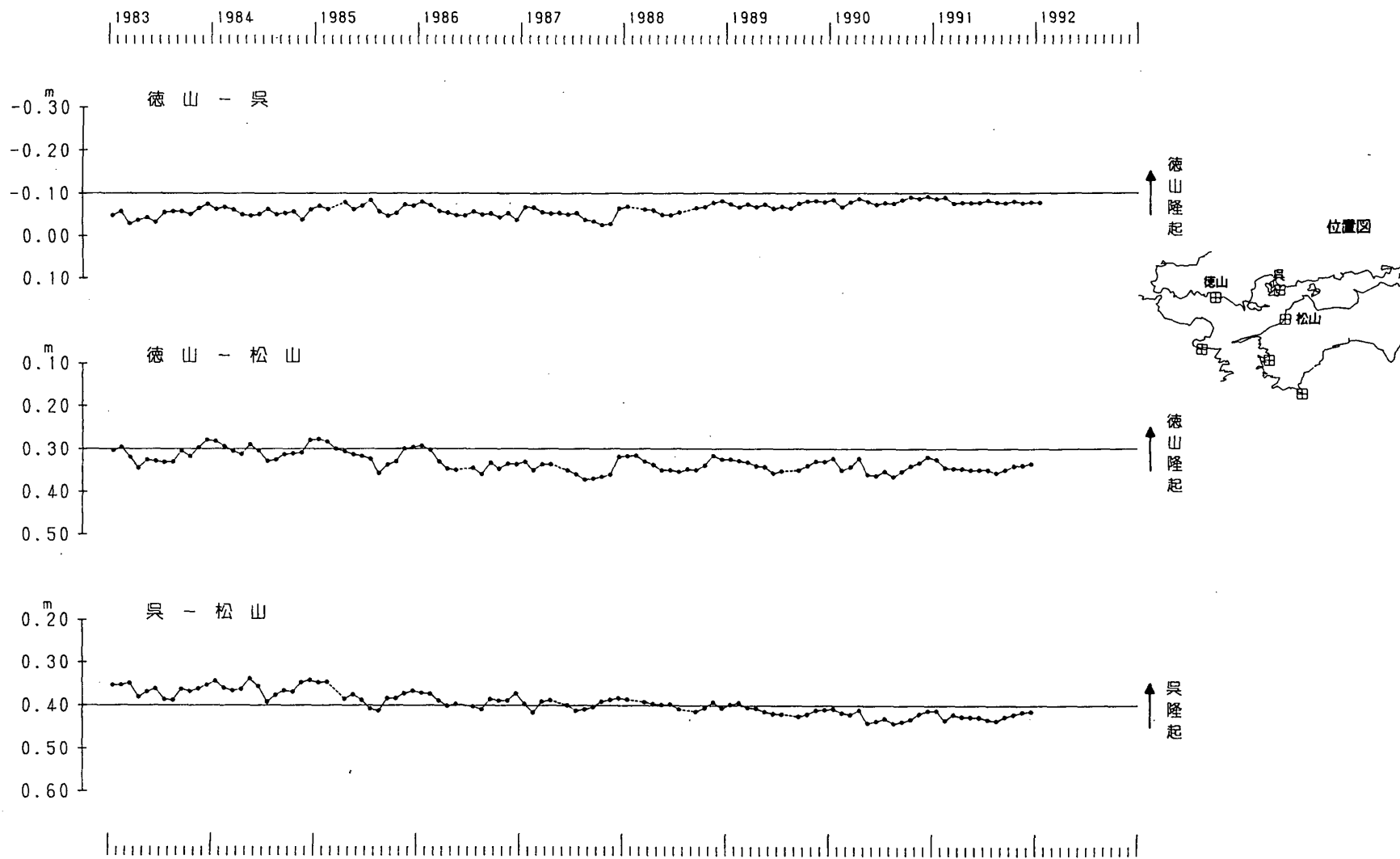
第 1 図 中国地方の上下変動

Fig. 1 Vertical Movements in Chugoku District.



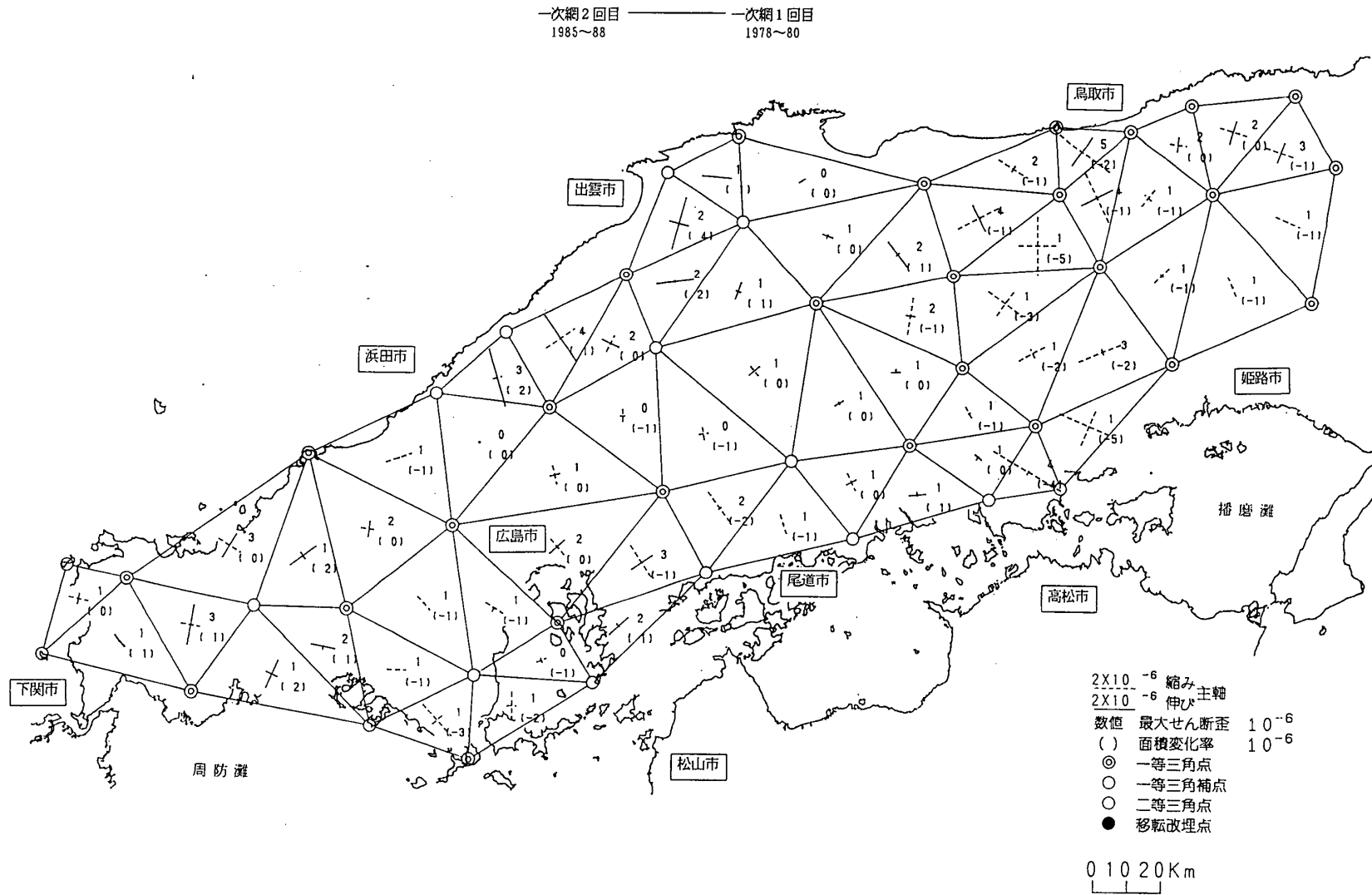
第2図 境・田後・浜田各験潮場間の月平均潮位差

Fig. 2 Differences in monthly mean sea levels between the Sakai, the Tajiri and the Hamada tide stations.

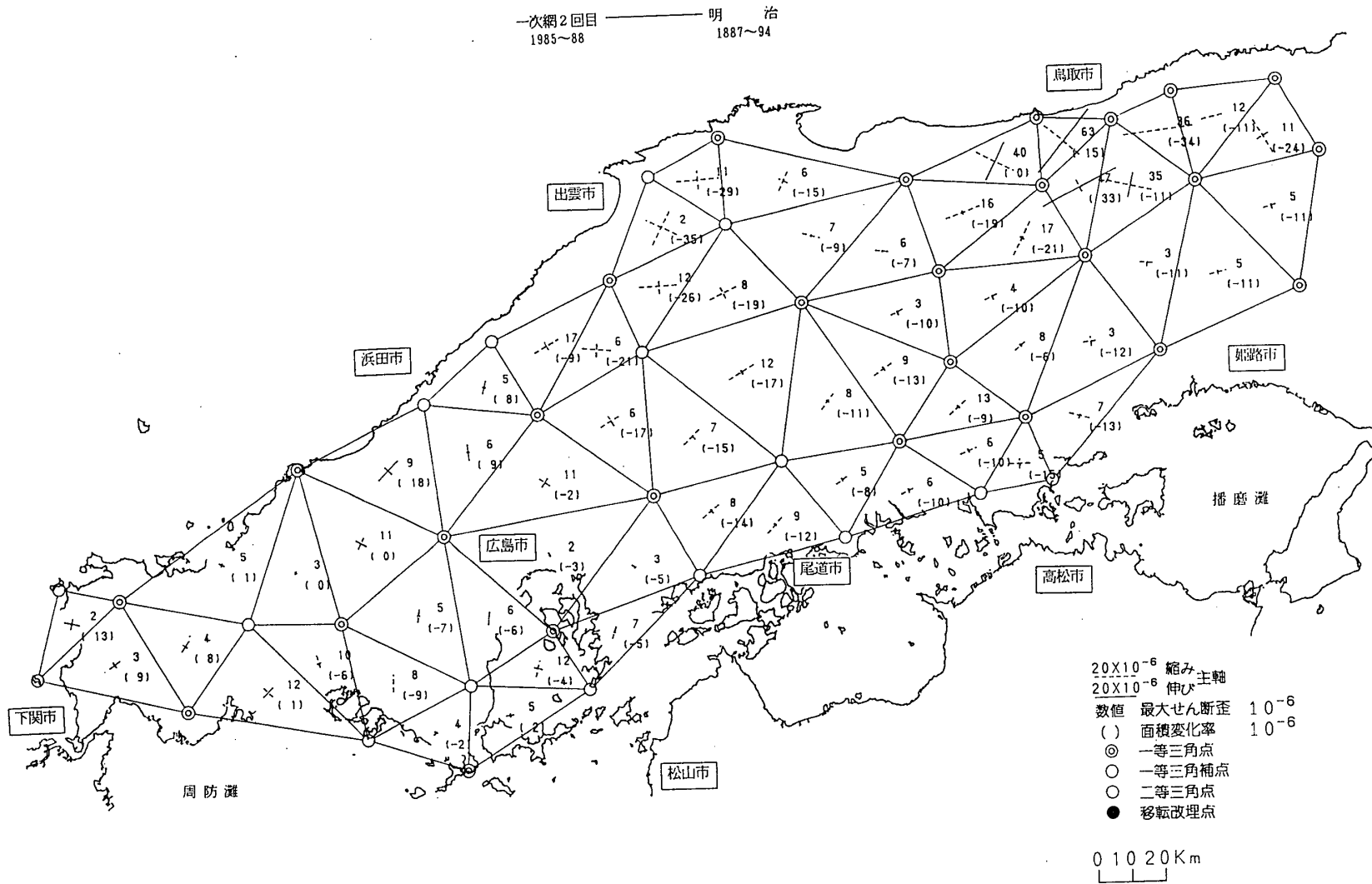


第3図 徳山・呉・松山各験潮場間の月平均潮位差

Fig. 3 Differences in monthly mean sea levels between the Tokuyama, the Kure and the Matsuyama tide stations.



第4図 中国地方の水平歪(1)
 Fig. 4 Horizontal strain in the Chugoku District (1).



第5図 中国地方の水平歪(2)

Fig. 5 Horizontal strain in the Chugoku District (2).